住人十彩（じゅうにんといろ）

2020 December
#8 ～藤田祐一さん・美紀さん～

このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を紹介します。
今回は藤田祐一さん・美紀さん（吉本）です。

メダカ屋を始めたきっかけ

藤田祐一さん（42）・美紀さん（35）は4人の子どもと6人暮らし。

祐一さんは、普段は自身が代表を務める氷川ルーフ工業で屋根工事の仕事をしている。

今回紹介するのは、祐一さんと美紀さんが今年7月から始めた、改良メダカの養殖・販売を行う「熊笑（くましょう）メダカ」。

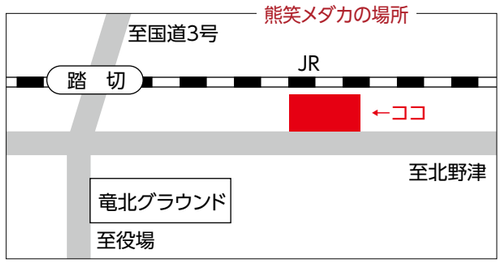
屋号は、「熊本の人がメダカを通じて少しでも笑顔になってもらえるように」との願いを込めて付けたという。

メダカは、「メダカの学校」という童謡があるように、かつては水路や池などで身近に見られたが、外来種による捕食や、水環境の変化で棲める場所が減り、平成15年から絶滅危惧種に指定されている、珍しい魚である。

メダカ屋を始めるきっかけになったのは、祐一さんが3年前に知人からたまたま譲ってもらった数匹のメダカ。

最初は自宅で観賞用として飼っていたが、熱帯魚などと比べて飼育や繁殖が簡単であり、品種改良の奥深さもあって次第にその魅力に引きこまれていったという。

今では約60種類、5,000匹以上のメダカを養殖するまでになった。



❶JRの沿線に事業所を構える。子どもたちに楽しんでもらうために、「メダカすくい」の水槽も。

❷オス、メスの判別や、メダカの色合いやサイズなどを管理し、改良メダカを繁殖させる。適度に日光に当てることで、病気になりにくい、丈夫なメダカに育つという。

❸鮮やかに色づいたものや、ラメが入ったもの、ヒレが長いものなど、一口にメダカといっても多くの種類がいる。

改良メダカ

「改良メダカ」とは、特徴を持ったメダカ同士を交配させて新しく品種改良したメダカのことで、体色、体形、目やヒレの特徴などで品種が分けられる。

約20年前から増え始め、現在、500を超える品種がある。

熊笑メダカには、改良メダカの愛好家はもちろん、子ども連れの家族が訪れて、色とりどりの改良メダカを見て興味津々になり、購入されることが多いという。

「今後の目標は、熊笑メダカのオリジナル改良メダカを作ることです。」とにこやかに話す2人。

新しい品種を作るには、突然変異のメダカが生まれる必要があり、簡単ではないとされるが、愛情たっぷりにメダカを育てる2人なら、オリジナル改良メダカが誕生する日もそう遠くないはずだ。

募　集

このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を募集しています。自薦・他薦は問いません。

詳しくは、お問い合わせください。

申込先：企画財政課　企画係
☎0965-52-5850
メール：
kouhou@hikawa.kumamoto.jp